

# うちどく

一冊の本が心を育てる 人を育てる！

うちどく(家読)とは、「家庭読書」を略した呼び名で、読書を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという試みで、家族ふれあい読書を意味しています。

うちどく(家読)のやり方に特別な決まりはありません。家族で一冊の本を読み、感想を共有したり、家族一緒になって読書を楽しむ時間を過ごしたり、読んだ本について話をすることを基本としています。

光岡公民館・光岡家読推進連絡会



読書好きは一生の財産です。

創造力を養うものになります。

言葉を楽しむ、感性を磨き、表現力を高める

子ども時代の読書活動は

うちどく(家読)には、絵本をおすすめしています。

絵本をおすすめするのは、

- ①人と人とが関わりあえる
- ②わかりやすい言葉と絵
- ③教育的で感動的な内容
- ④15分程度で読み終える

といった理由からです。



朝読から、うちどく(家読)へ！  
新しい地域文化の創造を目指して！

〈読んだ本の名前〉ぼくらの先生

〈作者〉はやみね かおる

〈読んだ感想〉

私は絵本ではなく、ふつうの本をお母さんとかわりばんこに読みました。同じ本をいっしょに読むことで、感想を言い合ったり言葉だけで伝えきれないおもしろさを共有できるから、とても良かったです。

〈読んだ感想(おうちの方の感想)〉

子どもから「すっごくオススメ!だから読んでみて!」と、ずっと言われていた本をこの機会に読んでみることにしました。読んでみると、やっぱり親子……、同じ感想がたくさん出ました。「こんな先生になりたいナァ〜」という子どもの声が、心にひびきました。こんな本を「いいよ!」と言う子どもの成長にも感動した1日でした。

うちどくノートに書かれた親子の感想から…

〈読んだ本の名前〉たいせつなこと

〈作者〉マーガレット・ワイス・ブラウン

〈読んだ感想〉

この本に書いてあることは、当たり前のことばかりだけれど、その一つひとつの役割が「たいせつなこと」が書かれています。一番心に残ったのは「あなたは、あなたでいること」これから迷っても自分らしく生きたいです。。

〈読んだ感想(おうちの方の感想)〉

「あなたは、あなたでいること」最後の言葉に感動しました。これからどんどん大きくなり、いろいろ迷う年代になります。この本を思い出して、「大切なこと」忘れないでほしいです。

〈読んだ本の名前〉おいしいのぼうけん

〈作者〉古田 足日、田畑 精一

〈読んだ感想〉

このお話は想像の世界というか、非現実的であり、現実的なちょっと不思議な感じです。小さい子の「こわい」気持ちなどが、とてもよくわかって私もこんな風にいろいろと想像していたなあと思いました。

〈読んだ感想(おうちの方の感想)〉

この本は、子どもが何度も「読んで!」と言って、何度も読んできた絵本です。絵本ですが、字が多くて小さな頃は途中までで終わったりしていましたが、久しぶりに読むと、しっかり自分で全部読み、気持ちまで理解できていて、成長してる……と、改めて感じました。この本はハラハラドキドキがいっぱい、とてもおもしろいです。2人の主人公の男の子に色々なことを教えられたような気がしました。

〈読んだ本の名前〉ぐるんぼのようちえん

〈作者〉西内ミナミ

〈読んだ感想〉

ぼくが小さいころに読んでもらっていて、お母さんの小さなころに買ってもらった本だそうです。絵本だけれど物語は色々な展開があっっておもしろかったです。

〈読んだ感想(おうちの方の感想)〉

ん十年前の私が小さいころに買ってもらった本を(実家の母が)大事に取っておいてくれたので、子どもが生まれて読み聞かせをする時に、一番初めに読んだ思い出の本です。表紙も変わらず……値段は違いますが……でも読み聞かせのきっかけは家に本があったから……会話もはずみますよね。久しぶりに市立図書館にでも親子で行こう思いました。

スマホ時代の子どもたち「うちどく(家読)」で心育てよう!

うちどく(家読)は、読書という方法で、  
家族のコミュニケーションを図り「家族の絆」を深め、心を育てることを目指した提案型読書運動です。

うちどく(家読)を地域文化へ～光岡公民館・光岡家読推進連絡会～